

タカダの終活塾2022

終活セミナー

コロナ禍の家族葬について

後援 北國新聞社株式会社  
加賀ケーブル株式会社

# タカダの終活塾2022 終活セミナー コロナ禍の家族葬について

株式会社高田

経営理念 葬儀を通じて関わりあうお客様の、人生の節目に寄り添い、幸せへのお手伝いをする

お葬式は、大切な人を弔うことと同時に、ご縁のあった方々が、大切な人との絆を結び直し、確かめ合い、これから生きていく時間を幸せになっていくためのこの原点、出発点となる儀式です。ご遺族の想いを感じ取り、その想い一つ一つを大切に、カタチにする。私達の仕事は、お葬儀という哀しみ、お別れの儀式のお手伝いではありますが、その本質は、受け継いだ「いのちのつながり」に感謝し、また次の世代に紡いでいくための時間のお手伝いなのだと考えています。ご遺族に寄り添い、本当に必要なサービスを真心を込めて提供する。これら葬祭業としての原点に、常に真っ直ぐな気持ちで取り組むことをモットーとしています。

この理念を原点に、社員、家族、お客様、そして  
関わりつながり合う全ての人々が幸せになっていくことを目的に企業活動をする

自己紹介

楠 明倫(くすのき あきのり)

昭和56年2月11日生まれ

41歳



# 家族葬と一般葬の違い

## 一般葬

「お知らせして、皆さんにお別れに来て頂く」  
告知をする⇒  
・新聞のお悔やみ欄掲載  
・自宅に玄関幕、葬儀案内  
・町内放送

**生前にお世話になった全ての方々への告知に重点がおかれている**

## 家族葬

「家族や親族、友人など、本当に親しい方だけ来て頂く」  
一般的な告知をしない⇒  
・お知らせする方を限定する

**親しかった人だけで、故人との最後のお別れをする**

# 家族葬の現状

- 小松加賀斎場火葬件数実績
- 地方紙のお悔やみ欄掲載  
※加賀市内の場合

年度	全体火葬件数	一般葬（新聞掲載あり）		家族葬（新聞掲載なし）	
2017年度	926	527	56.9%	399	43.1%
2018年度	924	520	56.3%	404	43.7%
2019年度	968	508	52.5%	460	47.5%
2020年度	905	347	38.3%	558	61.7%
2021年度	940	387	41.2%	553	58.8%
2022年度	196	90	45.9%	106	54.1%

※2022年度は6月度までのデータになります。

# 家族葬の現状

●タカダの場合  
タカダの施工件数実績  
地方紙のお悔やみ欄掲載

年度	一般葬割合	家族葬割合
2017年度	38.9%	61.1%
2018年度	38.3%	61.7%
2019年度	30.3%	69.7%
2020年度	25.0%	75.0%
2021年度	27.2%	72.8%
2022年度	38.1%	61.9%

※2022年度は6月度までのデータになります。

# 家族葬のポイント

- ①声をかける親族、友人等を事前に決めておく  
どこまで声をかけるか事前に決めておくと、もしもの時に悩むことなくおすすめです。声をかける方々のリスト等を作っておくことで負担が軽くなります。
- ②家族や親族に家族葬で行う事を理解してもらう  
やはり中には葬儀は一般葬でという考えの方もいます。一人でも家族葬に不満があると、スムーズに段取りが進まない場合がありますので、ご理解頂けるよう注意が必要。

# 家族葬のポイント

- ③終了後の新聞おくやみ欄掲載をどうするか  
葬儀後に終了後掲載することも可能。その場合、自宅での対応が出来るかどうか掲載のポイントになる。
  
- ④お香典を受け取るかどうか  
家族葬でもお香典を頂いたら、その場で香典返しをします。また最初からお香典は受け取らないと決めて、お香典を持ってこられてもお断りする場合もある。

# 家族葬のポイント

## ⑤費用のこと

家族葬は一般葬に比べると葬儀代金が低価格にはなるが、香典収入がほぼ親族のみになるので、香典収入が少なくなる。その為葬儀代金、御布施などの費用負担が多くなるので、ある程度の準備が必要。

**最大のメリット!!**

## ⑥精神的、体力的な負担が一般葬と比べて軽い

身内ばかりの葬儀になるので、気持的にも楽で一般葬のようにお参りに来る方々の対応等に追われることがない。



## まとめ

- 一般葬と家族葬では告知する範囲が違う
- 葬儀費用は一般葬より小規模なので抑えられる
- 一般葬に比べると香典収入が少ない為、費用の負担が大きい場合がある
- 香典返しはする場合としない場合がある
- 声をかける親族、友人等のリストを作成する
- 家族や親族に家族葬で行う事を理解してもらう
- 終了後の新聞おくやみ欄掲載をどうするか
- 精神的、体力的な負担が一般葬と比べて軽い

# コロナ前とお葬式はどのように変わったのか？

- ご自宅へ帰らず、式場へ直接ご移動になる方の増加
- 遠方のご親族が来にくい、こちらから呼びにくい
- 式場内の座席数の削減
- お食事の形態の変化
- 一般会葬者のお参りの流れの変化
- 火葬場からの制約

# コロナ前とお葬式はどのように変わったのか？

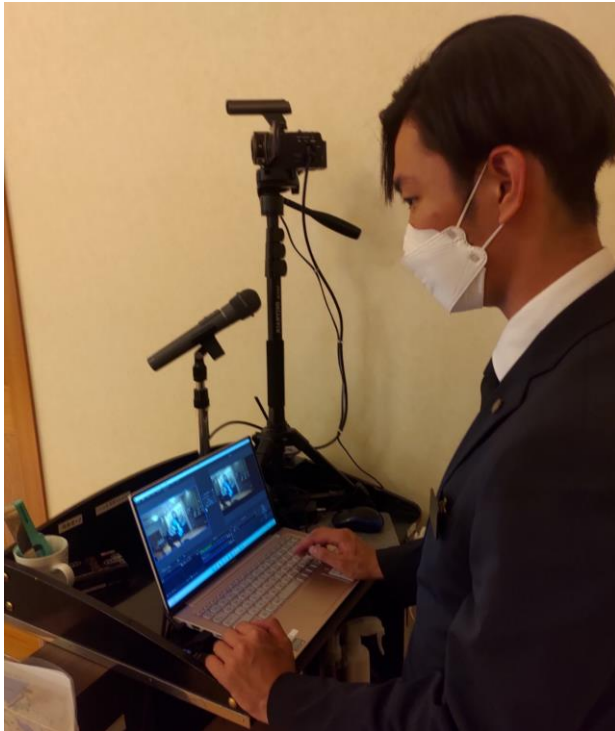
- ご自宅へ帰らず、葬儀場へ直接ご移動になる方が増加

	葬儀場へ直接ご移動の割合
2017年度	38.2%
2018年度	40.7%
2019年度	45.9%
2020年度	51.2%
2021年度	51.2%

# コロナ前とお葬式はどのように変わったのか？

- 遠方のご親族が来にくい、こちらからお声がけしにくい

- ▶ オンライン配信の写真



タカダでは「お別れの機会をもっと多くの方へ」をテーマに、オンライン葬儀サービスをご提供しております。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3密を避ける行動が求められている中、葬儀は自粛できるものではありませんが、感染拡大のリスクも考慮しなくてははいけません。体調や移動規制などで参列したくてもできない方が外出しなくてもオンライン上で参列ができ、会場にいる方々と一緒に故人を悼むことができます。

# コロナ前とお葬式はどのように変わったのか？

## ● 式場内の座席数の削減

コロナ前



セレモニー会館タカダ



家族葬ファミリーア



コロナ禍



# コロナ前とお葬式はどのように変わったのか？

## ●お食事の形態が変化

### ▶ 通夜ふるまい

コロナ前

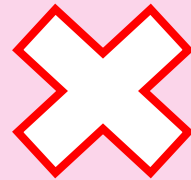
- ・オードブル
- ・会食

コロナ禍

- ・お弁当
- ・持ち帰り

### ▶ 中陰

- ・オードブル
- ・汁物の提供（現在は可）
- ・アルコールの持ち込み、提供



# コロナ前とお葬式はどのように変わったのか？

## ●一般会葬者のお参りの流れ

コロナ前



コロナ後



# コロナ前とお葬式はどのように変わったのか？

## ●火葬場からの制約

火葬場での体温測定・消毒

火葬場へ行く方の人数制限（控え室は20名・ロビーでの待機は10名）

控え室は1ご遺族様1部屋まで

オードブル形式の食事（現在も不可）汁物の提供の制限（現在は可）

アルコール類の提供、持ち込みの禁止



## まとめ

コロナになり2年以上が経過し、少しずつ状況が変わってきました。ワクチン接種も進み政府の対応にも変化が見られます。

お葬儀に関しても基本的な感染予防を行いながら、しっかりとお別れの場を設けられるようになってきていると感じています。

コロナだからと言って、無理に人数を絞るのではなく人数に応じ、ゆったりとした会場を選ぶ方。お料理についても会食か、お持ち帰りの2択ではなく、会食する人とお持ち帰りのお弁当を渡すハイブリッド式を選ぶ方が増えてきています。

「故人との最後のお別れをしっかりとする」という基本的な考え方は、コロナ前と変わっていません。このことを忘れずに、基本的な感染予防対策を行えば、無理に変えていく必要はないと考えております。

# 事前相談

を

おすすめします！



ご清聴有り難うございました  
今後ともよろしくお願ひします！



株式会社高田 セレモニー会館タカダ スタッフ一同